

氏名	松原 三智子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博乙第4469号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	博士の論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文の題目	1歳6か月児健康診査で用いる親子関係アセスメントツール (PCRAT) の開発 —支援を要する親子のタイプに着目して—
論文審査委員	白井喜代子 教授、中塚幹也 教授、芳我ちより 准教授

### 学位論文内容の要旨

本研究の目的は、親子関係アセスメントツール原案 (PCRAT 原案) を 1 歳 6 か月児健康診査 (以下、1 歳半健診) で適用して親子関係をアセスメントし、支援を要する親子の特徴的な項目に着目した親子のタイプを明らかにすることである。

調査方法は郵送による自己記入式質問紙調査を行った。研究参加者は 1 歳半健診に従事している保健師 69 名であった。PCRAT 原案を保健師に健診で使用してもらい、親支援を要する対象と捉えた 94 事例について、クラスター分析でグループを分類し、判別分析で分類したグループの判別率を確認した。さらに、項目の該当率に着目して、1 歳半健診で支援を要する親子のタイプと特徴を解釈し、ツールとして用いることができる様式を作成した。

PCRAT 原案 37 項目は、母子保健の経験年数に関わらずほとんどの項目で有意差がなく、安定性が確認できた。これらの該当率は 1.1-53.2%で、1 項目につき平均 18.2 事例 (range 1-50) であった。判別に有効な項目は 20 項目で、4 つに分類でき、交差妥当化の判別の中率は 80.9%であった。これら 20 項目の中から特徴的な項目に着目して、1 歳半健診で支援を要する親子のタイプと特徴を解釈した。タイプ I は表現苦手／関わり下手タイプで、タイプ II は無表情／落ち着きない子どもに翻弄タイプで、タイプ III は関わり両極端／両者粗雑影響タイプで、タイプ IV は関わり希薄／両者反応微弱タイプであった。

本研究で示された 4 つの親子のタイプは、虐待のサインに類似した項目を含んでおり、予防的支援が必要な親子のタイプと特徴を捉えていた。

## 論文審査結果の要旨

論文審査要旨：本研究の目的は、親子関係アセスメントツール原案（PCRAT）を1歳6か月健康診査で適用して親子関係をアセスメントし、支援する親子の特徴的な項目に着目した親子のタイプを明らかにすることである。1歳6か月健康診査時、保健師69名にPCRAT原案を使用してもらい親支援を要する対象（94事例）を抽出した。クラスター分析でグループ分類し、判別分析で分類グループの判別率を確認している。項目の該当率に着目して1歳6か月健康診査において支援を要する親子のタイプと特徴を明らかにし、ツールとして使用できる様式を作成した。

PCRAT原案37項目は母子保健の経験年数にかかわらず、多くの項目で安定性が確認でき、判別に有効な20項目の中から特徴的な項目に着目し4タイプに分類している。

1歳6か月健康診査において、親子関係のひずみが気になる対象を把握するための親子関係アセスメントツール原案は、今後の実際の活用が期待される研究である。本研究科博士後期課程における研究として十分に基準をクリアした内容であると判断された。

但し、1歳6か月健康診査時の対象の中には、既に親支援を要する事例も含まれており選出基準が明確でなかったことや、親支援を要する対象（94事例）のその後の評価が無かったことを踏まえ、今後、項目内容の検討を重ねられることを望みます。